

## 米雇用統計とコロナ感染に注目

- ◆ドル円は、世界的な新型コロナウイルス感染第3波で伸び悩む展開か
- ◆米国11月ISM製造業・非製造業景気指数、雇用統計やバイデン政権閣僚人事に要注目
- ◆ユーロドルは、欧州の感染第3波による行動規制再強化とECB追加緩和策で伸び悩むか

### 予想レンジ

ドル円 101.00-106.00 円

ユーロドル 1.1600-1.2100 ドル

### 11月30日週の展望

ドル円は伸び悩む展開か。世界的な新型コロナウイルス感染拡大第3波を受けたリスク回避の円買いで上値が重い展開が予想される。トランプ政権が一般調達局にバイデン氏への政権移行開始を許可したことはリスク選好要因だが、トランプ陣営がペンシルベニア州の大統領選結果を巡り連邦高裁に上訴したこと、新型コロナ景気対策法案の協議が難航していることは、リスク回避要因となっている。バイデン次期米大統領は、次期財務長官にイエレン第15代米連邦準備理事会(FRB)議長を任命すると報じられている。労働市場を注視してきたイエレン第78代米財務長官が誕生した場合、持論の「高圧経済」、すなわち、多少の期間、インフレ率が目標値の2%を上回っても利上げせず、財政刺激策などで経済の過熱状態を保つ政策をとるならドルの上値を抑えよう。パウエル米FRB議長も、雇用を重視する「平均物価目標」により、2023年末までのゼロ金利政策の継続を示唆しており、米国の財政・金融政策がドルの上値を抑える可能性が高まりつつある。イエレン次期財務長官とパウエルFRB議長が注視する11月雇用統計は、非農業部門雇用者数が前月比+52.6万人(10月+63.8万人)、失業率は6.8%(10月6.9%)と予想されている。新型コロナウイルス感染第3波の影響で、雇用情勢が悪化していた場合、12月15-16日の米連邦公開市場委員会(FOMC)で、資産購入の期間や年限などを含む新たなガイダンスが示される可能性が高まることになる。米国11月ISM製造業・非製造業景気指数では、新型コロナウイルス感染第3波の景況感を見極めることになる。米国10月貿易収支では、対中貿易赤字に注目しつつ、ムニューシン財務長官が発表を示唆している為替報告書での中国の為替操作国認定の可能性に要警戒となる。新型コロナウイルスに関しては、ワクチン開発が進展していることは、来年以降のリスク選好要因となっているものの、第3波の感染拡大が続いていることは、ロックダウン(都市封鎖)や緊急事態宣言による景気減速というリスク回避要因、すなわち、円買い要因となる。

ユーロドルは伸び悩む展開か。欧州全域で新型コロナウイルス感染第3波を受けて行動規制再強化への警戒感が高まっていること、12月10日の欧州中央銀行(ECB)理事会で追加緩和策が発表される可能性が高まりつつあることで伸び悩む展開か。11月のユーロ圏消費者・生産者物価指数や10月小売売上高にも要注目か。ユーロ円も、欧州での新型コロナウイルス感染第3波や都市封鎖(ロックダウン)による景気減速懸念から伸び悩む展開か。

### 11月23日週の回顧

ドル円は103.69円から104.76円まで上昇。トランプ政権が一般調達局にバイデン氏への政権移行開始を許可したことや、バイデン次期大統領が次期財務長官にイエレン元FRB議長を任命するとの報道、新型コロナウイルスのワクチン開発進展などを好感して、ダウ平均が史上初の3万ドル台に乗せたことでリスク選好の円売りが優勢。ユーロドルは、リスク回避のドル売りで1.1800ドルから1.1941ドルまで上昇。ユーロ円は123.02円から124.57円まで上昇。(了)